



「どうしん」つどいの広場 プロフィール

開設 平成14年6月
開所時間 10時～16時(月曜日～金曜日)
スタッフ 常勤1名、非常勤1名
利用者数 月間延べ人数約500人

県内有数の城下町・中津市の人口は約8万6千人。大分県北部の中心的な都市であり、他市・他県からの転入者が多いことが特徴の一つとなっています。この「つどいの広場」の利用者も、昔から住んでいる“地元の子”より、市役所へ転入届を提出する際にその存在を知って訪れる“転勤族”が圧倒的に多く、慣れない土地での子育てに大きな不安を抱える親子を支援する場として、つどいの広場は大きな役割と使命を担っていると

言えます。しかしその反面、「童心会館」が出来て50年近く経った今も、その存在および事業内容が、地元市民にあまり知られていないという現実があり、つどいの広場を含めた「童心会館」の認知活動は今尚大きな課題となっています。そのため児童館と広場スタッフが一体となって、バザーの開催や地域の祭り“楽一”の際に館特製の弁当を準備するなど“地域に積極的に出ていく”活動を通じて事業全体の認知促進を図っています。

事業の特徴

「どうしん」つどいの広場は、市の委託事業として平成14年スタートしました。開設当初は少なかった利用者も、情報発信として毎月発行する「月刊カレンダー」や利用者の「口コミ」効果により着実に増加。現在は、月間延べ人数約500人の親子で賑わう広場になっています。

その活動方針は、あくまで利用者主体の広場であること。月3回のイベント(「工作&歌いましょう」、「英語で遊ぼう」、「読み

聞かせ&おやつづくり)、月4回の「おもちゃ図書館」を固定プログラムにしている他は、親子の自由な交流の場として活用されており、スタッフもイベント開催日以外は“気軽な相談相手”として見守り役に徹しています。また、広場の利用時間を午前・午後と分けずに運営しているため、お弁当持参で訪れる親子が多く、天気の良い日は利用者同士で誘い合って近隣の公園に出かけるなど、ランチタイムでの楽しい親子交流

も魅力の一つとなっています。

なお「つどいの広場」は、地域のお母さん方を中心とした「おはなし会たんぽぽ」の活動の場としても利用されており、週1回、大型紙芝居やエプロンシアターなどの制作活動が行われている他、つどいの広場の休日には「おはなし会」(月1回)が開かれています。

速川児童館 & 親と子のともだちサロンはやかわ

児童と親子が自然にふれあう“第二の我が家”は、お年寄りの経験と知恵が活きる子育て支援拠点。



速川児童館 プロフィール

運営主体 社会福祉法人速川福祉協会
所在地 〒935-0263 富山県氷見市小久米83-5
TEL.0766-76-2613 FAX.0766-76-2636
開設 昭和44年4月
開館時間 9時～20時(月曜日～土曜日)
スタッフ 常勤3名(児童厚生員)、夜間1名(指導員)
利用者数 月間延べ人数約1200～1300人

保育所併設型の私立児童館として全国的にも稀有な存在である「速川児童館」は、能登半島に近い富山県氷見市の山間地・小久米地区にあります。この児童館が事業を開始したのは昭和41年(県の開設認可は昭和44年)。高度経済成長に伴い、農業・漁業の機械化が進み共働き家庭が急増する中で児童たちの生活環境も大きく変化、近隣の小学校で学ぶ「速川保育園」の卒園児の多くが、放課後“仕事で親が留守の家”に帰らず、

下校途中に保育園へ立ち寄るようになり、「放課後児童クラブ」の必要性に迫られ事業をスタートしました。以来40年近く、“児童に対して適切な遊び・生活の場を提供し指導・援助を行う”ことを活動の基本として、地区の小学校と連携を図りながら、「放課後児童クラブ」の活動を中心に児童の健全な育成に取り組んでいます。

事業の特徴

昭和41年、統廃合により空き家となった登記所の建物を利用して開かれた「速川児童館」。屋内は、懐かしい昭和の匂いが漂う“温かい我が家”のような雰囲気です。その活動方針は、「四季を通じてこの場所でしかできない遊びを、スタッフ同士で話し合い、子どもと一緒に考えながら組み立てていく」こと。緑豊かな自然に囲まれた小高い丘の麓にある児童館として、冬の竹藪(そり)遊びや丘の上でのサマーキャンプ、そして原木でのシイタケ栽培など、子どもたちの遊びの経験値を確かめながら“できる遊び・

できるコト”を学年に応じて行っています。また、学童が主体となる「放課後児童クラブ活動」は曜日別に、版画教室、パソコン教室、ピアノ教室、習字教室、囲碁クラブがあり、県の“子育てシニアサポーター”の認定を受けた地域ボランティアの方々も指導にあたっています。囲碁クラブなどの時は、児童たちも“達人の空気感”を察知してか自然に正座。こうしたクラブ活動や四季折々の行事を通じて行われる高齢者の方々との交流は、挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を身につける上でも児童たちの貴重な体験となっています。

